

「地域包括ケアシステム構築」の進捗状況の点検

令和8年度 第1回 高齢者福祉専門分科会

資料2-③

令和8年8月19日（水）

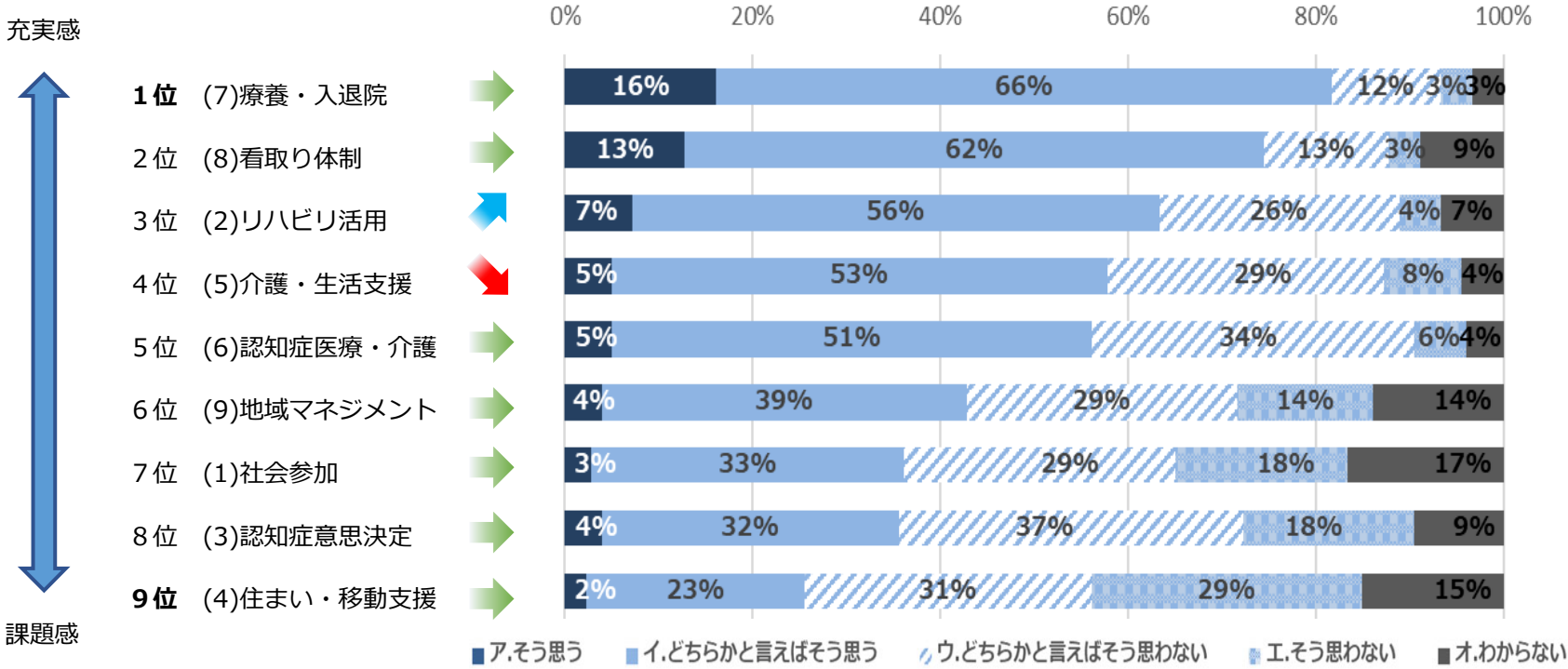
市川市における「地域包括ケアシステム」構築に関する施策の進捗状況について、令和7年度の市川市ケアマネジャー調査の結果を報告します。

【総評】

令和7年度の結果は、令和4年度と比較して、大きな順位の変動はありませんでした。

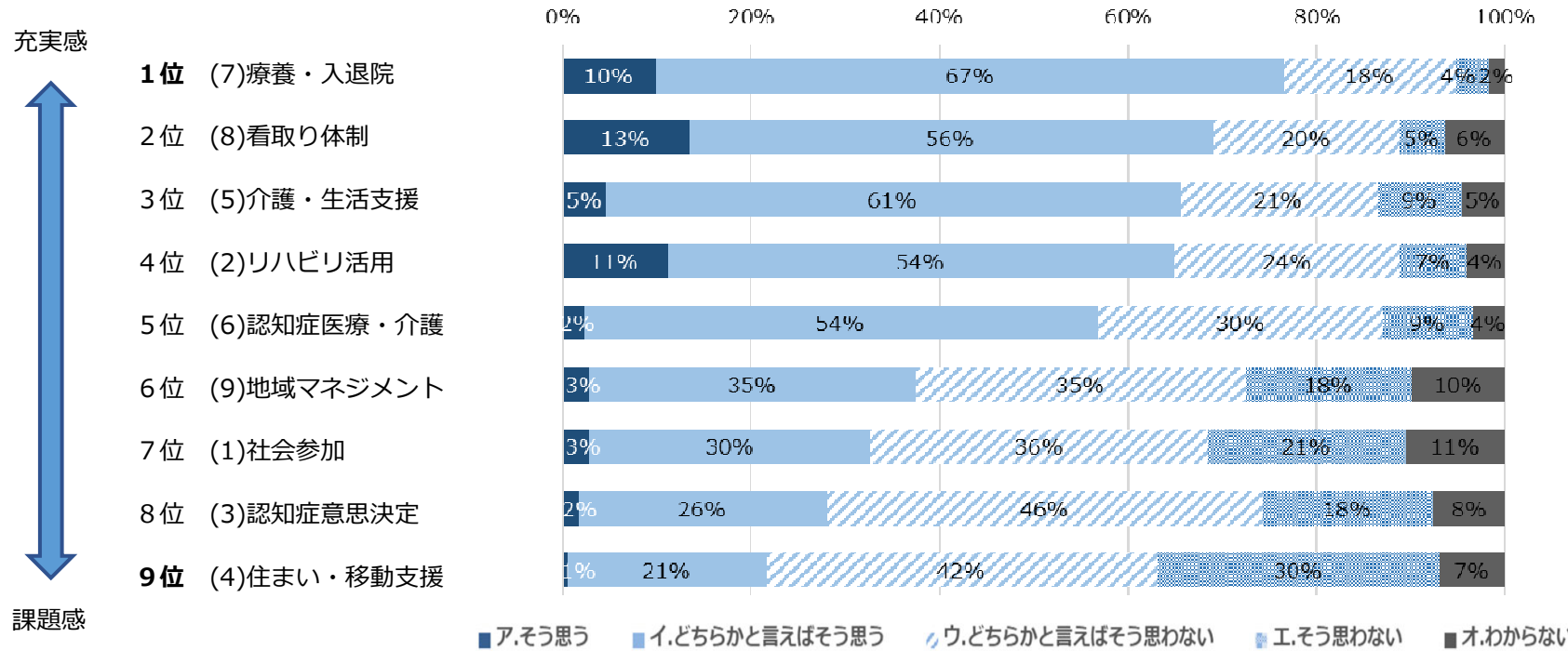
評価の高い領域としては、「療養・入退院」「看取り体制」「リハビリ活用」が挙げられ、評価の低い領域としては、「住まい・移動支援」「認知症意思決定」「社会参加」が挙げられます。これらの領域においても、肯定的な評価の割合は上昇しており、特に「認知症意思決定」では8ポイント上昇するなど、改善傾向にあります。

● 令和7年度市川市ケアマネジャー調査【結果】



(参考)

● 令和4年度市川市ケアマネジャー調査【結果】



参照 ○ケアマネジャー調査において下記設問を実施

問：市川市における「地域包括ケアシステム」構築に関する施策の進捗状況について、日頃の業務を通じてお感じになっていることをお伺いします。

下記(1)～(9)の項目それぞれについて、選択肢から回答してください。

【選択肢】 ア.そう思う／イ.どちらかと言えばそう思う／ウ.どちらかと言えばそう思わない／エ.そう思わない／オ.わからない

- 【社会参加】多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている。
- 【リハビリ活用】高齢者がリハビリテーション等を活用しながらできる限り心身機能や生活行為の回復と維持を図っている。
- 【認知症意思決定】高齢者を含む地域住民が、認知症への理解を深め、認知症の人の発信や意思決定・権利擁護が尊重されていると感じている。
- 【住まい・移動支援】高齢期の住まいや移動を支える資源の整備・活用に向けた取組が実施されている。
- 【介護・生活支援】高齢者や家族が、望む暮らしに合った介護サービスや生活支援を利用でき、生活を継続している。
- 【認知症医療・介護】認知症になっても、その状況に応じた適時・適切な医療・介護サービスを利用でき、生活を継続できている。
- 【療養・入退院】高齢者が、普段の生活の中で療養を継続でき、入退院があっても切れ目のないケアを利用でき、生活を継続している。
- 【看取り体制】本人の希望に応じた療養から看取りへと続く体制を整え、提供できている。
- 【地域マネジメント】行政を中心に、高齢者サポートセンターや地域の関係機関が連携し、分野横断的なマネジメントが実施できている。